

**<研究ノート>**新たな日本語レッスンと日本語ビジネス  
MangadeJapaneseを例にNew Japanese lesson and New Japanese business  
-As an example of MangadeJapanese-

鈴木 晃二 (MangadeJapaneseインストラクター)

キーワード : MangadeJapanese、日本語学習法、WebEx、Skype

**要旨**

近年、日本のアニメやマンガに興味を持ち日本語を勉強したいという新しい日本語学習者が増えてきている。インターネットの普及によって、学校に通わなくても、日本語を勉強することができるようになってきた。新しい日本語ビジネスの具体例として、MangadeJapaneseとそのレッスン、今後の日本語教育について述べる。

**1. 日本語学習法**

外国人が日本語を勉強する場合、いくつかの方法がある。1つは、大学などの教育機関で勉強する。2つ目は、民間の日本語学校へ行く。3つ目に、教科書を買って、独力で勉強する。そして、近年増えているものとして、インターネットで自国に居ながらにして、日本語ネイティブスピーカーから学ぶという方法である。ここでは、このインターネットでの日本語教育、及び日本語ビジネスを取り上げる。

インターネットで語学を学ぶ方法として、有名なものでは、Skypeが挙げられる。インターネットで、「Skype」と「語学」というキーワードを検索すれば、様々な言語で個人レッスンをしてくれるネイティブスピーカーを探し出すことができる。また、同種の語学サービスでは、有名なものとして、「ロゼッタストーン」がある。これも、様々な言語のネイティブスピーカーを紹介してもらい、勉強することができる。もちろん日本語も、Skypeでもロゼッタストーンでも語学サービスを受けることができる。

Skypeでもロゼッタストーンでもないものとして、「MangadeJapanese」(マンガでジャパニーズと読む)という日本語教育サービスを紹介したい。私は、このMangadeJapaneseで、約5年間日本語を教えている。Skypeやロゼッタストーンとは違った、現在の新たな日本語ニーズに合ったサービスであると考えられる。以下では、MangadeJapaneseの内容について説明していく。

## 2. MangadeJapaneseとは

MangadeJapaneseは、株式会社ファイブスタートにおける日本語教育サービスである。株式会社ファイブスタートには、大きく2つのサービスがある。1つは、アメリカ在住日本人子女へのオンライン教育を行うものである。簡単に説明すると、アメリカ在住日本人子女が日本へ戻ったときに、日本の学校の勉強についていけるようにするための塾である。また、アメリカ在住を続ける場合でも、日本語や日本文化、日本的な習慣を保持したまま生活ができるようにするものである。そして、もう1つのサービスが、日本のマンガやアニメから日本語に興味をもった人への日本語教育をするものである。

### 2. 1 ニーズ

MangadeJapaneseの学生は、日本のアニメやマンガ、他にもJ-pop等の音楽で日本語に興味を持って、日本語の勉強を始めた学生である。オタクの学生といってもいいだろう。日本人と同じように、またそれ以上に、マンガやアニメに詳しい学生なのである。学生たちの最終目標は、日本語を勉強することで、日本語のままマンガが読めるようになる、日本のアニメがそのまま見られるようになるということなのである。

このようなモチベーションは、レッスンにもあらわれやすく、自分の好きなマンガを紹介したり、キャラクターを説明したりする宿題を与えると、自分が使える文型を使って、何とかして日本語の文章を完成させてくるのである。

### 2. 2 MangadeJapaneseのシステムの特徴

MangadeJapaneseは、Skypeやロゼッタストーンとのシステムと異ったシステムをとっている。これが、一番の特徴といえよう。

現在、Skypeは、自分のパソコンの画面を相手と共有することができるようになっているが、Skype1つの中で様々なアプリケーションを使うことは負荷がかかるので、それを続けることはあまり望ましくない。ロゼッタストーンは、会員がロゼッタストーンのシステムにログインすることで、ネイティブの教師と会話をするものである。

MangadeJapaneseのシステムは、ロゼッタストーンに近いものではあるが、「WebEx」というインターネット会議室に教師と学生が入る。このWebExというインターネット会議室をMangadeJapaneseがレッスン1コマごとに7部屋を借りており、1日9コマの時間帯を借りている。WebExに教師はホストとして入る。ホスト（教師）は、自分のパソコン環境をゲスト（学生）に対して全て共有することができる。レッスンは、WebExでインターネット環境を共有し、その状態で、Skypeで学生と音声共有を行う。

つまり、Skypeもロゼッタストーンも、1つのシステムしか使わないのに対し、MangadeJapaneseは、WebExとSkypeの2つのシステムを同時に使うのである。

## 2. 3 WebExを使ったレッスンの利点

### 2. 3. 1 インターネットレッスンにおける利点

WebExとSkypeの2つのシステムを使うと上記したが、レッスンでは、Skypeは教師と学生が話すことのみを利用し、WebExはそれ以外の全てのものを担うことになる。そうすることによって、SkypeとWebExのどちらかに不具合が起きたとしても、レッスンが継続できるという利点がある。どちらかに不具合が起きた場合でも、Skypeでは画面の共有ができ、WebExでは音声通話が可能である。この利点は、かなり大きい。日本のインターネット環境はかなり整備されているが、アメリカでのインターネット環境は様々であり、日本での環境が良くても、学生側の環境が悪く、レッスン中にスカイプが切れるなどのトラブルはよく起こる。これは、MangadeJapaneseの教師が頻繁に体験することである。

音声に関するトラブルの解決方法としては、Skypeから学生の携帯電話や家電話にかけるという方法がある。これは、最終手段であり、ほとんどないことである。このような形でMangadeJapaneseは、レッスンにおけるインターネット環境のリスクを回避しているのである。

### 2. 3. 2 アプリケーションとしての利点

Skypeでの共有システムは画面の共有である。アプリケーションを一つ一つ個別に共有することはできない。しかし、WebExは、動画や音楽の再生、ホストのパソコンで動かしているアプリケーション（例えば、ExcelやWordなど）を、全て学生に見せることができる。また、アプリケーションを個別に共有することもできる。具体的な例として、J-popのCDを学生と一緒に聞いたり、You Tubeの動画を一緒に見たりすることが可能なのである。

WebExは会議室ということもあり、ホワイトボードの機能などもあり、マウスを動かすことで線を書くことができ、書いているところがリアルタイムで相手のパソコンの画面に反映される。これは、日本語レッスンでは、かなや漢字の筆順を見せることにとても役に立っている。

映像については、レッスン中はウェブカメラを使ってこちらの顔を写している。Skypeでもビデオ通話ができるが、レッスンはWebExがメインで行われているのでビデオの映像はWebExを通して見る。これもSkypeよりも安定したシステムだと感じている。

## 2. 4 MangadeJapaneseのレッスン

MangadeJapaneseのニーズの中でも触れたが、日本のアニメやマンガで日本語に興味を持った人への日本語教育がMangadeJapaneseの日本語教育である。ここでMangadeJapaneseのレッスン内容を紹介しておく。

### 2. 4. 1 教授法について

日本人教師による日本語を使った直接法。直接法を使うことによって、学習者が日本文化に興味があるが、日本人と接する機会はほとんどない環境の中で、生の日本語を感じることができるのである。

## 2. 4. 2 テキストについて

MangadeJapaneseのオリジナルテキスト。著作権の切れたマンガを元に、提出文型の出てくるマンガのコマを利用。（マンガ『KAGETORA』を使用。社長の荒野氏が出版社から使用許可を得ている。）

以下、MangadeJapaneseのオリジナルテキストの一部。

※導入部分のページ

### 1. これ／それ／あれ

(1) これは まんがです。  
kore wa manga desu



1かん 34ページ



ペン  
pen



おちゃ  
ocha



りんご  
ringo



ノート  
nooto



(2) あれは じゅうどうです。  
are wa juudou desu



※マンガで使われている他ページの紹介のページ

## 2. まんが



1かん 99ページ

99ページ

かげとら！**これ**がたこだ！  
**これ**がうに！  
**これ**がさかな！

67ページ

ゆき……**これ**は？



1かん 67ページ

137ページ

うん。**これ**なに？  
**これ**はくさりがま。

### 2. 4. 3 教材について

MangadeJapaneseの教師作成のオリジナルの補助教材を使う。オリジナルテキストに即したマンガやアニメを使った教材で文型の練習をする。このオリジナルの補助教材は、複製や二次利用など法的制限があるため、画面共有によって使用し、学習者に補助教材を渡すことは絶対にしないことになっている。

それ以外には、市販の音声教材やCDを聞いたり、インターネット動画を一緒に見たりする。具体例として以下に動画サイトの使用例を挙げておく。

インターネット動画サイト『Youtube』の使用例

#### 【文型導入の場合】

- 1) 教師が事前に導入する文型が使われている動画を探しておく。
- 2) 学習者と一緒に、文型が使われている動画を、画面共有をして見る。
- 3) 口頭練習や変換練習などをする。

#### 【宿題として使う場合】

- 1) 教師が事前に導入する文型が使われている動画を探しておく。

- 2) 学習者に動画のURLをメールなどで伝える。
- 3) 宿題の指示として、動画のある一部分（例：○分×秒から○分△秒まで）を見て、聞き取り、ディクテーションをしてもらう。
- 4) 次のレッスンで宿題の解答を発表してもらう。

#### 2. 4. 4 レッスン例

私は、口頭練習とオリジナル教材を使用した練習を重視したレッスンをしている。

##### 【文型導入】

- 1) 学習者に文系を提示しているマンガのコマを読んでもらう。
- 2) 教師もマンガのコマを読む。
- 3) 導入する文型に必要な単語などの対訳は英語で説明する。（最低限の説明はテキストに英語で説明が書いてある。）
- 4) 文型が使われる場面を話す。（日本語で話す場合が多いが、英語を用いる場合もある。）  
学習者の好きなマンガやアニメのキャラ・シーンを使った導入が効果的である。
- 5) 口頭練習（変換練習、文型を使わせるためのQ&Aなどを中心に）
- 6) テキストの練習問題（宿題とする場合もある。）
- 7) オリジナルの補助教材を使った練習  
（※著作権に関わるために、ここに補助教材を載せることが出来ないが、実際のレッスンでは画面共有で見せ、文型を使わせる練習をする。）

### 3. 今後の展望

上記のようにMangadeJapaneseのシステムとレッスン内容を簡単に説明してきた。MangadeJapaneseは、非常に特化した日本語教育ビジネスといえよう。日本語学習は、大きく分ければ、留学生、就業者、日本人配偶者とその家族が必要とするものと、趣味や興味としての学習に分けられる。趣味や興味としての学習は、まだまだ規模が小さいものだが、大きくなる可能性を秘めていると感じている。

マンガの日本語の分析として、私は、あるマンガのセリフを全て抜き出し、多く使われている文法や文型を抜き出している。そこから見えてくることは、漢字や語彙の勉強を除くと、「普通形」や「縮約形」はマンガを読むためには学習の初期段階から必要だということである。他にも、「て形」は様々な機能が使われており、日本語の教科書の「て形」の提出順では、マンガを読むスキルを身につけるには時間がかかるということもわかってくる。

このように、マンガを読むためやアニメをみるために必要な文法や文型やスキルを分析し、それに特化したレッスンを作ることができるなら、趣味や興味で日本語を学習する人口は爆発的に増えると私は考える。